どんぐりの森通信　第26号　2014年11月

『平岡どんぐりの森』は、札幌市清田区・厚別区周辺の公園や緑地をフィールドに、自然観察会や生きもの調査などを通じて、身近な自然に親しむ活動を続けているグループです。自分たちの住む地域に残された自然を子どもたちと一緒に楽しみたい、身近にある豊かな自然を次の世代に引き継ぎたい、との思いから出発した私たちの活動も、いつの間にか10年を越しました。地域の自然環境が少しずつ変化する中で、『平岡どんぐりの森』の活動内容も変わってきてはいますが、思いは出発点と同じです。身近な自然を楽しみながら、自然環境と生きものたちを見守る目を増やしていくことを願って、活動を続けています。

どんぐりの森通信第26号では、2014年の春から秋にかけての活動報告をまとめてお届けします。

特集　◆◆　平岡公園での活動　◆◆

札幌市南東部、道央道の両側に広がる平岡公園。1200本の梅が植えられた梅林が有名ですが、広い園内にはコナラやミズナラを中心とした山林や湿地、湧き水、三里川に注ぐ小川など、あちこちに地域の自然の姿が残されています。さらに公園西側には、かって石狩平野の原風景であった湿地の再現を目指して、市民参加で造成された人工湿地と池があります。2000年に完成した湿地の造成段階から関わってきた私たちは、公園ボランティアとして現在も除草や移植などのお手伝いをしています。山林、沢、湿地、原っぱと、さまざまな環境とそこに棲む生きものたちを観察できる平岡公園は、身近な自然観察の貴重なフィールドになっています。

◆ながぐつの土曜日◆

4月から10月まで、毎月第3土曜日に開催している小学生の親子中心の観察会です。季節のテーマを中心に、樹木・草花・虫・鳥と何でも「見てみよう」「さわってみよう」「調べてみよう」と話題が広がる楽しい観察会です。生きものが大好きな酪農学園大学の学生さん達も毎回参加して、子どもたちの質問に答えてくれます。

4月19日（土）　飛び出せ！春のたんけんたい（参加者　110名）

雪解けと共に、春一番のお楽しみ*エゾアカガエル*の産卵が始まりました。人工湿地の木道からあちこちに盛り上がった卵塊を観察した後、バケツに入れた卵に触ってみます。ぷりぷりしたゼリー状の卵塊の中に、小さな命がいっぱい詰まっているのを感じられたかな？

6月21日（土）トンボのたんけんたいとカエル・ツアー（参加者　73名）

例年この時期の湿地では、飛び交うトンボがたくさん見られるのですが、気温が十分に上がらなかったためかトンボの姿はほとんどなく、残念。そのかわり、酪農大の皆さんが用意した数種類のカエルに皆な夢中になりました。*エゾアカガエル*はもちろん、平岡公園で増えている*トノサマガエル*や、北海道には棲んでいないはずの*ツチガエル*、*トウキョウダルマガエル*などのカエルも見て触って、外来種の話に耳を傾けました。

人工湿地には*サギスゲ*の白い穂が風にそよぎ、*エゾノヒツジグサ*や珍しい*クロバナロウゲ*の花も咲き始めていました。この湿地の環境が合ったのか驚くほど増えた*ヤナギトラノオ*は、今年も黄色い花をたくさんつけてくれそうです。初夏の湿地を渡る風はさわやかでした。

7月19日（土）川のたんけんたい（参加者　53名）

暑い夏の日は、水遊びが一番！ですね。たも網とバケツを手に、子ども大人も川の中にじゃぶじゃぶ入って水辺の生きもの探しです。*フクドジョウ*、*スナヤツメ*、*スジエビ*、*ヨコエビ*、*オニヤンマ*のやごなどたくさん見つけました。昨晩かけておいた網には、数年ぶりに*モクズガニ*も入っていました。

9月 20日（土）　はらっぱたんけんたい　（参加者　30 名）

梅園から森の中の散策路を歩いて、*アキアカネ*が飛び交う原っぱへと向かいました。草笛の作り方を習って、吹いてみます。きれいな音を出すのはなかなか難しい。頑張って成功した時の笑顔は最高！今日は「虫の先生」問田さんも参加して、良く似たチョウやバッタの見分け方や生態の話をしてくれました。

10月18日（土）　紅葉の森たんけんたい（参加者　51 名）

さわやかな秋晴れになりました。燃えるような紅葉に彩られた園内を歩きます。入口近くで*ガガイモ*の実を発見。分解してみると、中には銀色の綿毛が付いたタネがぎっしり。黄色の*イタヤカエデ*の葉、半分色付いた*ヤマモミジ*、一番見事な紅葉は真っ赤な*ハウチワカエデ*でした。森の中には大きな赤い傘を広げた*ベニテングダケ*や*マムシグサ*の実、*キタコブシ*も赤いタネがこぼれ落ちそうになっています。*ヤマブドウ*は美味しそうだけれど、高い所で手が届きません。*ノブドウ*の実は七変化のきれいな色を見せてくれますが、美味しくないそうです。

◆ツリーウオッチング　◆

毎月第3水曜日には公園内の樹木を中心にした観察会を行っています。毎月顔を見せてくれる定例メンバーが多いですが、初めて参加する方もすぐに溶け込んで、皆でワイワイおしゃべりしながら楽しく歩いています。芽吹きから始まって、開花、新緑、結実、紅葉と季節が移るたびに違った顔を見せてくれる樹木。毎月同じ場所を歩いていても、いつも新しい発見があります。

5月21日（水）芽吹きのいろいろ・樹木の花を見る

今年の梅は開花が早く、もう葉が茂り始めています。樹木の花は（桜や梅は別として）目立たないものが多く、気付かないうちに終わってしまいますが、良く見ると色も形もなかなかきれい。風に揺れる*ミズナラ・コナラ*の長い雄花序、*ヤマグワ*の可愛いつぼみ、プロペラが半分できた*ハウチワカエデ*の赤い花などが観察できました。花盛りだったのは白い*ミヤマザクラ*です。上流湿地では*ミズドクサ*の新緑が美しく、人工湿地では*ミツガシワ*がもう開花していました。

6月18日（水）さわやかな新緑の森を歩く

雨にぬれて一段と緑が濃くなった森を歩きました。芽吹きが遅い*イヌエンジュ*はやっと雄花の蕾が立ち上がり、花期の長い*ホオノキ*の大きな花が良い香りを漂わせています。

ハウチワカエデの花とタネ（5月）

イヌエンジュの蕾（6月）

ホオノキの実（9月）

9月17日（水）森の恵みと動物たちの暮らし

9月の森は、もう秋の気配が感じられます。*ホオノキ*の実は、いち早く赤く色付き始めました。湿地や水際では*ミゾソバ*が花盛りの時期を迎えました。*オオミゾソバ*の濃いピンクの花が、木道の両側を埋めるように咲いています。*エゾゴマナ*、*ハンゴンソウ*、*エゾトリカブト*と秋の花も勢ぞろいしました。今年は*サワフタギ*の青い実が数えるほどしかないのが残念です。どんぐりが実るのは、まだ先ですね。